

第3章 新病院の建設に向けた考え方（案）

1. 病床規模

資料 5 参照

2. 施設・設備

（1）高度医療の提供を支える施設・設備

- 救急医療、手術、放射線治療、CT、MRI 等の検査など、高度な医療水準を維持するための施設・設備を充実させ、医師・看護職がライセンス業務に専念できる医療環境を整えます。
- ICU、CCU、HCU など集中治療室を充実させ、周術期や集中観察が必要な患者への対応を充実させます。
- 手術支援ロボット等最新の高度医療機器の導入、ハイブリッド手術室の整備、ICU 等の拡充など、最新治療に対応します。

（2）将来を見据えた施設計画

- 次期の建て替えや増改築等を見据え、必要な面積の用地を確保します。
- 医療ニーズの変化や少子高齢化等社会環境の変化などに伴って、医療センターが担うべき医療に対応できるよう、増築や改修がしやすい施設とします。
- 新たな医療機器の導入や設備の更新、医療技術等の将来の変化に対応できる柔軟性や拡張性を備えた施設・設備とします。

（3）機能的な施設配置

- 部門間の関連性に配慮した機能的な配置計画により、効率的な医療サービスの提供を目指します。
- 医師、看護師、患者等の移動動線及び診療材料、医薬品等の物流動線が交錯しないような、効率的な動線計画とします。
- 交通アクセス、駐車場やバス停など、外部からの動線も含めた病院全体のユニバーサルデザインⁱ化を進めます。

（4）患者中心の施設

- 高齢者や障害者など多様な利用者の視点に立ち、ユニバーサルデザインを採用するなど、わかりやすい施設配置に配慮します。
- 採光や緑化などに配慮し、快適な医療環境を確保することで、患者に癒しやくつろぎ

ⁱ ユニバーサルデザイン：できるだけ多くの人々が利用可能であるように製品、建物、空間等をデザインすること

を提供します。

- 患者のプライバシーを確保するとともに、生活の質（QOL）にも配慮します。

（５）災害に強い病院

- 災害拠点病院として、災害時に継続して医療を提供する体制を整えるため、建物を免震構造にし、患者及び医療スタッフの安全を確保するとともに、自家発電装置など必要な設備を整備します。また、電源や熱源などの冗長化ⁱⁱやサーバの分散を図ります。
- 災害発生時に、大量の患者を受け入れられるスペース（外来ホール等の活用など）やトリアージスペースを確保するとともに、それらのスペースに医療ガス等の必要な設備を計画的に整備します。
- 災害時の医療体制の強化として、災害派遣医療チーム（DMAT）の派遣体制を強化するとともに、ヘリコプター等を利用した広域的な救急搬送にも対応するためのヘリポートを敷地内に整備します。

（６）教育・研修機能の充実

- 医師、看護師等が、高度な医療ニーズに対応できる能力を継続的に修得し、医療の質を向上するため、新たに研修センターを設置します。
- 地域の医療従事者を対象とした、症例検討会、医学・医療に関する講習会を開催するために必要な施設・設備を備えます。

（７）経済性を考慮した施設・設備

- 将来的な病院経営の負担を軽減するため、施設整備費の適正化に努めます。
- 日常のメンテナンスや修繕、定期的な更新、将来の設備増設のしやすさに配慮するとともに、設備の長寿命化を図ります。
- 効率化や省エネルギー化を進め、ランニングコストの低減に努めます。

ⁱⁱ 冗長化：最低限必要な量より多めに設備を用意しておき、一部の設備が故障してもサービスを継続して提供できるようにシステムを構築すること